令和６年度第１回　感染症発生動向調査協議会

令和６年４月１７日

月番：馬場　尚志(感染症全般)、 石山　俊次(STI)

１　前月の感染症発生動向について（2024 年第 10 週～13 週・3 月）

＜全数把握対象疾患＞

（感染症全般）

- 結核は毎週報告あり。本年累計の対前年比は 98.3%（結核発症 82.6%、潜在性結核感染症 153.8%）。発症者 11 例中 3 例が 20 歳代（30 歳代 1 例）。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 4 例報告あり（本年累計の対前年比 140.0%、2019 年比も 140.0%）。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症はそれぞれ 2 例ずつ報告あり（本年累計の対前年同期比はそれぞれ 150%、100%）。
- レジオネラ症、アメーバ赤痢がそれぞれ 2 例報告あり。
- つつが虫病、麻疹、風疹、水痘（入院例）、播種性クリプトコックス症、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症、クロイツフェルト・ヤコブ病が、それぞれ 1 例報告あり。

（STI）

- 梅毒は、男性 8 例（早期顕症 1 期、2 期各 4 例）、女性 4 例（早期顕症 1 期、2 期各 1 例、無症候 2 例）計 12 例の報告があり、本年累計は 28 例（前年同期累計 26 例）となった。全国での本年累計は 3,053 例となり、年間 12,000 例を超えるペースで増加している。（全国の前年同期累計は 3,700 例で、年間 14,906 例）

＜定点把握対象疾患＞

（感染症全般）

- 新型コロナウイルス感染症は、定点あたり報告数が 8 前後で推移し、前月比 63.0%であった。
- インフルエンザは、定点あたりの報告数が 10 前後で推移した（前月比 95.7%、対前年同期比 310.4%、対 2019 年同期比 544.3%）。
- RS ウイルス感染症は、第 13 週に急増し、期間中 88 例報告あり（前月比 176.0%、対前年同期比 242.1%、対 2019 年同期比 129.4%）。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、定点あたりの報告数が 2.5 以上で推移した（前月比 118.7%、対前年同期比 1345.3%、対 2019 年同期比 249.6%）。

（STI）

- 性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウィルス感染症、尖圭コンジローマの発生状況に著変はみられなかった。
- 淋菌感染症は男性 1 例（飛騨）のみで、女性の報告はなかった。

２　検討すべき課題

・　COVID-19 に対する感染症発生動向調査結果の評価・解釈・フィードバック等について
・　梅毒の増加が続く要因について（対策・啓発等を含め）

３　情報提供すべき事項

・　海外渡航・受入れ等に伴う感染症について
・　今年度末での風疹の追加的対策（第 5 期定期接種）の終了について

４　情報提供（月番委員専門分野から）

・　エムポックス診療の手引き　第 2.0 版（https://www.mhlw.go.jp/content/001183682.pdf）
・　新しいワクチンについて
  - RS ウイルスワクチン（アレックスビー：グラクソ・スミスクライン）
  - 20 価肺炎球菌ワクチン（プレベナー20：ファイザー）
  - RS ウイルスワクチン（アブリスボ：ファイザー）
  - ダニ媒介性脳炎ウイルスワクチン（タイコバック：ファイザー）

５　その他（感染症対策推進課から）

・　予防接種法施行令の一部を改正する政令等の施行について
・　「エムポックス診療の手引き第 2.0 版」の周知について
・　成人の侵襲性細菌感染症に係る研究について
・　乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン及び乾燥弱毒生麻しんワクチンの供給について
・　季節性インフルエンザ警報の解除について

＜検討結果＞